

第 28 回院内学習会 風評被害を考える

「紅麴」(小林製薬)と「ベニコウジ色素」は全く別物

2024 年 4 月 24 日(水)午後 3 時 30 分～5 時

参議院議員会館 B109 会議室(地下 1 階)

小林製薬株式会社の「紅麴」(機能性表示食品)の摂取によると思われる重大な健康被害が多発しました。一方、「ベニコウジ色素」(食品添加物)は、奈良医大でラットを用いた長期間の毒性試験が実施され、安全性が確認されています。

ベニコウジ色素の株は、*M.purpureus* で安全性が確認されていますが、小林製薬の「紅麴」の株は、*M.pilosus* であって、別物ですので *M. purpureus* のデータを借用するわけには参りません。

「ベニコウジ色素」は、米国 FDA 申請の認可に向けた取り組みを進めており、申請書の Contents をご紹介します。

	紅麴 (小林製薬)	ベニコウジ色素
区分	食品原料	食品添加物
表示場所	/ (スラッシュ) の前	/ (スラッシュ) の後
表示例	紅麴、米紅麴 (米、米胚芽、紅麴菌)	ベニコウジ色素、モナスカス色素、着色料 (ベニコウジ)、着色料 (紅麴)、着色料 (モナスカス)
国の規格基準	なし	食品添加物公定書 (第10版)
製法 (菌株)	固体培養? (<i>M.pilosus</i>)	液体培養 (<i>M.purpureus</i>)
製成物	ポリケチド (色素、モノコリンK)、GABA等	ベニコウジ色素
健康被害	5名の死亡者及び多数の健康被害者	これまで報告はない
食経験	数年	数十年

司会 松本恵美子(弁護士・薬剤師)	開会: 3:30
ご出席議員のご紹介とご挨拶	(3:30～3:40)
1. 「紅麴」(小林製薬)と「ベニコウジ色素」(食品添加物)全く別物 中村幹雄(元消費者庁食品表示一元化検討会委員、厚労省第 8 版添加物公定書検討会委員)	(3:40～4:10)
2. ベニコウジ色素の米国 FDA 申請の Contents のイメージ 徳永裕司先生(一般財団法人食品薬品安全センター・秦野研究所 研究顧問)	(4:10～4:40)
質疑 (15 分) 事務局連絡等(5 分)	閉会: 17:00

定員:78 名(定員にて締切) 定員を超えて受付られないときのみ御連絡いたします。

資料代等(資料代、郵送費、立食等) 名刺交換会(立食)を開催します。

国会議員・国会議員秘書、マスコミ:無料、個人:1,000 円、企業・業界団体等:3,000 円

参議院議員 伊藤孝恵事務所

申込先:特定非営利活動法人 食品安全グローバルネットワーク 中村幹雄

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目 2-12 CSビル 3 階

FAX:06-6305-8614 メール:mikio@nakamura.in 携帯:090-3280-4181